

一一 シベリア経済援助一件

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件

一三 國際常設經濟委員会一件

一四 列國ノ和平工作一件

一五 連合國ノ独墺洪勃土各國トノ休戰條約締結ノ件

一六 パリ講和會議準備一件

一七 國際聯盟創設ニ關スル件

附錄 日本外交文書大正七年第三冊目附索引

- 一一 シベリア経済援助一件 三〇九
 一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 三一〇
 一三 國際常設經濟委員会一件 三一一
 一四 列國ノ和平工作一件 三一〇
 一五 連合國ノ独墺洪勃土各國トノ休戰條約締結ノ件 三一〇
 一六 パリ講和會議準備一件 三一〇
 一七 國際聯盟創設ニ關スル件 三一〇

事項一 山東省占領地施政一件

一 一月十二日 本野外務大臣ヨリ
在本邦中國公使宛山東省日本軍占領地ノ軍政ヲ民政ニ切替ニ関
スル中國ノ抗議ニ對シ回答ノ件

附記一 大正六年九月三十日内閣発表青島守備軍

民政部ノ設置ニ關スル件

二 大正六年十月六日附在濟南林領事ヨリ本

野外務大臣宛政機密第五七号

山東省民政施行ニ關スル新聞評論報告ノ

三 大正六年十月十五日在本邦中國公使ヨリ

日本外務省宛覺書坊子濟南ニ日本軍ガ民

政官ヲ置クコトニ抗議ノ件

支那公使閣下ハ日本カ山東省坊子及濟南ニ民政署ヲ設置シ

タル旨ノ新聞紙記事ニ閲シ十月十五日覺書ヲ以テ支那政府
ノ所見ヲ声明セラレタリ帝国政府ハ本件支那政府ノ声明カ不正確ナル推断及報道ニ
基ク所アルヲ信シ茲ニ率直ニ其ノ事實ノ真相ヲ敍セムトス

一 山東省占領地施政一件

一 山東省占領地施政一件 一

至リタルモノニシテ此ノ事態ハ本件行政組織ノ変更ト何等

ノ関係ヲ有セス從テ今日ニ於テ論議ノ問題タルヘキ理由ナ

シ膠濟鐵道終局ノ処分ニ至リテハ別ニ日獨両國間ノ解決ニ

政府ト協定スルコトアルヘキ一切ノ事項ハ大正四年ノ日支

條約ニ依リ既ニ予メ支那政府ニ於テ之ヲ承認スヘキコトヲ

約セリ

日本カ濟南ニ民政署ヲ設置シタリト云ヒ又ハ追テ之ヲ設置

セムトスルノ意アリト云フカ如キハ全然誤報ニシテ帝国政

府ハ目下斯ノ如キ計画ヲ有セス

之ヲ要スルニ軍政民政共ニ等ク軍事占領地ニ於ケル暫定的

行政制度ニシテ膠濟鐵道ノ線路及用地カ帝国ノ軍事占領ニ

帰シタル以上該地域内ニ暫定的行政ヲ布クハ普通ノ國際事

例ニ属ス単ニ軍政ヲ民政ニ移シタルカ為支那政府ノ異議ヲ

招キタルハ帝国政府ノ最意外トスル所ナリ

(欄外註記)

大正六年十一月二十九日總理ト打合濟陸相一覽済同意(本

野外相)

大正七年一月十二日外務大臣ヨリ章公使へ手交スミ

(附記一)

大正六年九月三十日内閣発表
青島守備軍民政部ノ設置ニ關スル件

我帝国ハ東亜ニ於ケル獨逸陸海軍ノ根拠地タル青島一帯ノ

地方ヲ占領スルト同時ニ青島守備軍司令官ヲシテ文武一切

ノ事務ヲ統理セシメ撫民機関トシテハ軍政署ヲ設置シテ專

ラ綏安ニ任シ又鐵道及鉱山ノ為ニハ山東鐵道管理部ヲ設ケ

テ其ノ經營ニ當ラシメタリ爾後歲ヲ閱スルコト既ニ三春秋

秩序略々定マリテ住民各其ノ堵ニ安ンスルニ至レリ茲ニ於

テ軍政ヲ撤シテ民政ヲ布キ以テ占領地ノ經營ヲ周到ニシ内

外住民ノ産業ヲ保護セシムルコトトナセリ

今次ノ改正ニ伴フ統治機關ノ異動ハ(一)鐵道及通信事務ヲ民

政部ニ移シテ各部長ヲ置キ民政長官ノ指導監督ヲ承ケテ運

輸通信ノ統一敏活ヲ図リ(二)埠頭局ノ事務ヲ鐵道部ニ移シテ

水陸運輸ノ便宜ヲ増進シ(三)民政署ヲ青島外數箇所ニ設置シ

テ專ラ内外住民ノ利便ニ資シ(四)行政警察及司法警察事務ヲ

民政部ニ移シテ所在憲兵ハ軍事警察以外ノ執行事務ニ就キ

民政長官ノ指揮民政署長ノ指示ヲ承ケテ各種助長行政ト密

接ノ聯繫ヲ保タシメ(五)從來山東鐵道沿線上ニ添置セシ領事

館巡查ニ代フルニ憲兵ヲ以テシ以テ監督官庁ヲ異ニスル警

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

我青島守備軍ノ民政施行ニ關シテハ支那人間ニハ未タ其真

相判明セサル為メ新聞等ニモ未タ格別ナル評論ノ掲載サル

ルヲ見受ケス候處本月五日発刊大東日報時評欄ニ之カ短評

ヲ試ミタルモノ有之候ニ付何等御参考迄右訳文添付以別紙

及報告候條御查閱相成候様致度此段申進候

敬具

(本信写送付先 北京公使)

(別 紙)

十月五日大東日報時評

官及憲兵ヲ以テ行ヒ唯濟南領事ノ同地民政署長トシテノ管轄

轄区域内ニ於テノミ憲兵ハ領事ノ指示ヲ受ク同時ニ右管轄

区域外ニハ領事館巡查ニ代フルニ全部憲兵ヲ以テス

二 大正六年十月一日軍務局蒲少佐ヨリ受取ル

大正六年十月六日附在濟南林領事ヨリ本野外務大臣宛公信
政機密第五七号

山東省日本軍民政施行ニ關スル新聞評論報告ノ件

(十月十五日接受)

大正六年十月六日

在濟南

領事 林 久治郎 (印)

(右訳文)

日人ノ青島ニ民政ヲ施行スルコト已ニ吾人ノ耳目ヲ駭スニ
足ルニ今又將ニ濟南ニ民政署ヲ設置セントス之レ最モ吾人

而我國人方意見互岐釁起鬭牆与人以鯨吞之時機豈不眞歟

宣戰之前猶可言也迨中德宣戰而後則日人承襲德人權利之說
當然取消乃意久復不帰喧賓奪主且眞焉而以廻分青島者施
之濟南嗚乎日人之野心固已目無中國矣

ノ反感ヲ惹起スルニ足ル夫レ日人ハ独人ノ支那ニ於ケル権利ヲ繼承スルノ故ヲ以テ青島ヲ奪取シタリ之レ我国未タ独立ト宣戰セサル以前ニ於テハ猶言フヘキナリ支独宣戰後ニ

モノナリ然ルニ竟ニ久シク取ツテ還付セス喧賓主ヲ奪ヒ且駿々焉トシテ青島ヲ処分スルモノヲ以テ之ヲ濟南ニ施サン

トス嗚呼日人ノ野心固ヨリ已ニ目ニ中国ナシ

而シテ我国人意見互ニ岐レ鬭牆鬪起シ人ニ与フルニ鯨呑ノ時機ヲ以テス豈恨マサルヘケンヤ

(附記三)

大正六年十月十五日在本邦中国公使ヨリ日本外務省宛覺書坊子濟南ニ日本軍ガ民政官ヲ置クコトニ抗議ノ件

准外交部電拠山東督軍電称報載日本在青島李村坊子濟南等處設民政署坊子等處雖有日商居究屬我国内地非青島可比且膠濟鐵路根本問題尚未解決遂設民政官於近路内地殊於理論不合云云查青島環界百里以外如坊子等處係屬内地且膠濟鐵路問題尚屬懸案其性質又實與青島不同日本斷無在坊子濟南設置民政官之理報載各節當係誤伝希向日外部正式聲明等語

貴電第一九号ニ関シ

山東民政問題ニ付支那側ヨリ公文又ハ口頭ヲ以テ累次抗議ヲ提出シ來リタル次第ハ累次ノ報道ニ依リ御承知ノ通リナルガ右ニ対シ今日迄何等御訓示ニ接セザリシ為支那側ヨリ再三催促アリシニ拘ラズ未ダ正式ニ回答ヲナシタルコトナキ次第ナル処今回貴電ニ接シタルニ就テハ御来示ノ趣旨ニ基キ支那側ニ回答ヲナシ度キ所存ナルモ貴電中坊子民政署ノ設置点ハ鐵道用地内ニ在リ云々ノ一節ニ関連シ民政署ノ行政範囲ハ鐵道用地内ニ限ラル次第ナリヤ支那側ヘノ回答ニ先ダチ此辺ニ關スル我方ノ立場ヲ十分明確ニ承知致シ置キ度キニ付何分ノ御返電ヲ請フ

濟南へ転電セリ

註

一月十二日本野外務大臣發芳沢臨時代理公使宛第十九号ヲ省略セルガ之ハ一月十二日在本邦中国公使ニ手交ノ覚書(前出)ノ趣旨ヲ通報セルモノナリ

三 一月二十三日 在中國芳沢臨時代理公使ヨリ本野外務大臣宛(電報)

山東省日本軍民政問題ニ關スル我方回答覚書

一 山東省占領地施政一件 三

(欄外注記)

大正六年十月十五日王書記官章公使代理トシテ持參

(右和訳文) (註假訳文ナリ)

外交部ノ電訓ニ接スルニ曰ク山東督軍ノ電報ニ拠ルニ日本

カ青島李村坊子濟南等ノ處ニ民政署ヲ設ケルコトヲ新聞紙ニ記載シタリ坊子等ノ處ハ日本商人居留スト雖モ畢竟我國ノ内地ニ係リ青島ニ比スヘキニ非ス且膠濟鐵道ノ根本問題ハ尚未タ解決セサルニ遽ニ鐵道附近ノ内地ニ民政官ヲ設ク

ルコトハ殊ニ理論ニ合セス云々按スルニ青島環界百里以外ノ坊子等ノ處ノ如キハ内地ニ係リ且膠濟鐵道問題ハ尙懸案ニ属シ其性質ハ又実ニ青島ト同シカラス日本ハ断シテ坊子

濟南ニ於テ民政官ヲ設置スルノ理由ナシ新聞紙ニ記載ノ事項ハ当ニ誤伝ニ係ルヘシ依テ日本外務省ニ向テ正式ニ声明アランコトヲ希フ云々

二 一月十四日 在中國芳沢臨時代理公使ヨリ 本野外務大臣宛(電報)

坊子民政署ノ行政範囲ハ鐵道用地内ニ限ラル
ル次第ナリヤ問合ノ件

第四二号

第八三号

往電第四二号ニ関シ未タ何等御回訓ニ接セサルニ付一月二十一日本官外交次長ト会見ノ節モ何等本問題ニ触ルルコトヲ避ケタル處次長ハ進テ本件ニ言及シ依然各方面ノ苦情甚タシク外交部ニ於テモ殆ト持余シ居ル実情ナルカ囊ニ実況視察ノ為特派シタル施履本ハ病氣ニテ濟南ヨリ引還シタル為自然呂烈煌モ亦続テ帰還スルノ已ムヲ得サルニ至リ不幸ニシテ所期ノ目的ヲ遂行シ得サリシ次第ナル處一方日本政府ヨリ章公使ニ手交セラレタル覺書ヲ閱悉スルニ其末段ニ何レ林公使帰任ノ上詳細説明セラルヘキ旨附記シアルモ覺書ニ現ハレタル趣旨ノミヲ以テセハ外交部ニ於テモ乍遺憾同意ヲ表シ難キノミナラス到底山東人民ノ激烈ナル反対ヲ鎮圧シ難ク寧ロ却テ更ニ各方面ノ反対運動ヲ醸成スルノ虞ナキニシモ非ス就テハ近々林公使帰任ノ上巨細ノ説明ヲモ承ハルヘキハ勿論ナルモ日本政府主張ノ本旨ニシテ右覺書ノ通ナリトセハ自然更ニ再考ヲ求メサルヘカラサル義ト思料セラルニ付日本政府ニ於テ今一応篤ト公正且好意的考量ヲ遂ケラレ公使東京出発ニ先チ公使帰任後更ニ支那ト隔意ナキ懇談ヲ遂ケ場合ニ依リテハ右覺書ノ趣旨ニ然ルベク

一 山東省占領地施政一件 四 五

修正ヲ加フルモ差支ナキ旨ノ訓令ヲ附与セラルコトヲ得

バ至極好都合ナルニ付此旨本国政府へ転達アリタキ旨ヲ述

ヘ同時ニ本問題発生以来既ニ久シキニ亘リ未タ何等解決ノ

曙光ヲモ見ルニ至ラズ徒ラニ国民ヲシテ外交部ガ無為ニシ

テ何等ノ措置ヲモ執ラザルガ如キ疑惧ヲ懷抱セシムルハ却

テ物議ヲ紛糾セシムル所以ニモ有之ニ付旁々此際山東代表

者ニ対シ不取敢前記日本政府ノ覚書ヲ内示シタシトモ考へ

居ル處日本政府ニ於テ別段ノ異議ナカルベキヤト試問シタ

ルニ付本官ハ右覚書ノ提示ニ依リ却テ地方人民ノ反対運動

ヲ熾ナラシムルガ如キコトナキヤ夫レトモ或ハ之ヲ緩和ス

ルノ効有之ベキヤト反問シタル處次長ハ素ヨリ何レモ予測

シ難キ旨答ヘタルニ付然ラバ本官ニ於テモ本国政府ニ一応

請訓ノ上ニアラザレバ確答シ難キ旨申述ヘ置キタリ就テハ

右ニ閑シ何分ノ御電訓ヲ請フ

在濟南領事ヘ転電セリ

四 一月二十八日

本野外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

山東省日本軍民政問題ニ閑スル我方覚書ヲ外

間ニ内示スルコトハ見合ハス様中國當局者ニ

第一一二二号

貴電第四四号ニ閑シ一月三十一日本官外交次長ニ会見ノ節

御来示ノ通伝シタル處同次長ハ謝意ヲ述べタル上今日迄

ハ山東代表者ニ対シ該覚書ヲ提示シタルコトナキモ誤解ヲ

避クル為メ大体ノ要領ヲ説明シタルコトアリ其際彼等ハ右

ノ件

シ

貴電第八三号末段ニ閑シ山東代表者ニシテ何等事実又ハ帝國政府ノ態度ヲ誤解スル所アリト認メラルニ於テハ其ノ誤解ヲ正スノ趣意ヲ以テ覚書記述ノ要旨ヲ内話スルコトハ差支ナキモ未發表外交文書タル覚書ヲ其ノ儘外間ニ内示スルカ如キコトハ見合ハサレタキ旨支那政府當局者ニ申入レラレタシ

濟南領事ヘ転電アリタシ

五 一月三十一日

本野外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

山東省日本軍民政ニ閑スル我回答覺書要旨ヲ

山東代表者ニ内話差支ナキ旨外交次長ニ伝達

申入方訓令ノ件

六

二満足セズ憤慨シ居レル模様ニテ今日モ猶続々外交部ニ出頭シ來レル有様ナリトテ林公使帰任ノ際ニ於ケル御訓示方ニ閑スル往電第八三号記載ノ如キ希望ヲ繰返シ居タリ
濟南ヘ転電セリ

六 二月十八日

本野外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

山東民政施行区域其他ニ付秋山民政長官陸軍

省側及外務省間ニ於テ協議ノ上作成セラレタ

ル覚書通報ノ件

別電 同日本野外務大臣發芳沢臨時代理公使宛電報

電報第九一号

右覚書

第九〇号

貴電第四二号ニ閑シ

先般來上京中ノ秋山民政長官及陸軍省側ト当省トノ間ニ曩ニ章公使ニ与ヘタル回答ノ趣旨ニ基キ民政施行区域其他ニ付協議ヲ重ネタル處結局別電第九一号覚書ノ通り協議ヲ了シタリ右覚書第一項ノ地域ハ所謂占領地域ニ属シ之ニ軍政

ヲ布クト民政ヲ施スト何等支障ナキコト帝国政府ノ回答覚書

(別電)

二月十八日本野外務大臣發在中国芳沢臨時代理公使宛電報

第九一号

山東民政施行区域其他ニ付秋山民政長官陸軍省側及外務省間ニ於テ協議作成セラレタル覚書全文

別電第九一号

覚書

一 山東省占領地施政一件 六

八

並山東鉄道線路及同鉄道用地内ニ限ルコト

二、民政施行地域外ト雖該地域ニ近接シ且現ニ主トシテ本邦人ノ集団居住スル地域内ニ在ル本邦人ハ事實上軍衛ノ保護ノ下ニ在ルコト

右等本邦人ニ対スル警察行政ハ張店以東ニ付テハ坊子民政署長ニ於テ之ヲ管掌シ張店及其ノ以西ニ付テハ民政部事務官ノ資格ヲ以テ在濟南領事ニ於テ民政長官ノ指揮監督ノ下ニ之ヲ管掌スルコト但シ民政部条例ニ依リ憲兵ニ指示ヲ与フル者ハ民政署長ニ限ルカ故ニ署長タラサル在濟南領事タル民政部事務官ニ対シ前掲ノ地域ニ於テ憲兵ニ指示ヲ与ヘテ警察行政ヲ管掌スルノ權限ヲ附与スル為所要ノ措置ヲ為スコト（但シ管区ハ憲兵配置ノ都合ニ依リ多少變更スルコトアルヘシ）

注意

所要ノ措置トハ勅令ノ發布、民政部ノ告示其ノ他公式ノ措置ヲ執ルニ於テハ内外ノ注意ヲ惹キ事面倒ナルニ付右等公式ノ方法ニ依ラス内訓等ノ方法ニ依リ目立タル様措置セラルヘキハ勿論ノ義ナリト了解ス

大正六年十月一日青島守備軍告示第九十三号ニ依ル坊子

民政署ノ管轄区域ハ前記坊子民政署長ト在濟南領事タル民政部事務官各自ノ管轄区域ニ適合スル様可然改正スルコト

三、張店及濰縣ニ派駐セル領事館巡查ヲ撤去スルコト

四、第二項ノ地域ニ於ケル支那人其ノ他外国人ニ対シテハ民政部ハ其ノ裁判及行政ニ干与セヌ又鐵道及電線ノ保護並本邦人ノ生命財産ノ保護ニ必要止ムヲ得サル場合ヲ除クノ外警察権ヲ行使セサルコト

五、裁判管轄区域ニ就テハ第二項ノ地域ハ領事官ノ管轄ニ属スルモノト認ムルコト但シ軍律及軍令違反事件ハ民政部ノ管轄トシ又民事々件ニ就テハ当事者ノ異議ナキ限り便宜民政部ニ於テ處理シ刑事案件々件ニ就テハ民政部ニ於テ處理スルモ差支ナキモノハ民政部ニテ處理スルコト

（欄外註記）

「博山枝線ニ付何等言及ナキモ同枝線ハ地理上張店以西ニ属スルト二月十三日會議ノ際軍務局長及秋山長官共ニ右ハ領事ニ帰属セシメ差支ナシトノ意響ナリントニ鑑ミ博山枝線ハ張店以西ニ含マルモノト解シ得ヘシ
然ルニ下記ノ管区ニ關スル留保ハ今回新ニ加ハリタル事項也之ニテモ差支ナキヤ否ヤ（広田守信印）」

七 四月三日

本野外務大臣ヨリ
在濟南山田領事代理宛（電報）

山東省張店及濰縣ノ警察署ノ派出所撤去ニ關

シ回訓ノ件

第一七号

三月二十五日附政機密第一八号貴信〔註〕ニ關シ民政問題ニ關シテハ在支公使宛往電第九一号ノ趣旨ニ依リ貴官ニ於テ民政

部側ト打合ノ上可然措置セラル様在支公使宛往電第九〇号末段ヲ以テ同公使經由曩ニ電訓ニ及ヒタル通りナルニ付

張店及濰縣ニ於ケル警察署派出所撤退方モ未タ取計ハレサルニ於テハ此際民政部側ト協議ノ上右実行方取計ハレタシ尚右在支公使宛往電第九一号賞書第二項所載在濟南領事力任スル為民政部ニ於テ執ルヘキ所要ノ措置ハ如何相成リタルヤ折返シ電報アリタシ

右在支公使ヘ転電アリタシ

註 在濟南山田領事代理三月二十五日發本野外務大臣宛政機密第一八号ヲ省略セルガ右ハ張店及濰縣ニ於ケル警察署派出所撤去ニ關シ請訓セルモノナリ

八 四月四日

本野外務大臣ヨリ
在濟南山田領事代理（電報）

民政部事務官兼任ノ辞令ヲ受ケ居ラザルニ付

民政部側ト何等ノ打合ヲ為シ居ラザル旨報告

シ処置振ニ付請訓ノ件

第七四号

貴電第一七号ニ關シ

民政問題ニ關シテハ在支日本公使宛貴電第九〇号並ニ第九一号ノ趣旨ニ依リ民政部側ト打合セノ上然ル可ク措置ス可キ筈ナル處前任林領事ニ於テモ何等民政部側ト正式協議ヲ遂ゲズシテ帰朝セラレタル次第ニテ其間ノ事情等ハ親シク同領事ヨリ報告セラレタルコトト存ゼラルル處本官ハ未ダ民政部事務官兼任ノ辞令ニモ接シ居ラザルニ付旁々本官ヨリ進ンデ民政部側ト打合ヲナシタルコトナク貴電第一七号末段民政部ニ於テ執ル可キ所要ノ措置等モ未ダ協定シ居ラズ從テ警察官派出所撤退方モ未ダ実行スルノ運ニ達シ居ラザル次第ニ付其辺ノ事情篤ト御賢諒ノ上其処置振ニ付何分ノ儀御電訓ヲ請フ

在支公使ヘ転電セリ

一 山東省占領地施政一件 九 一〇

九 四月十五日 本野外務大臣ヨリ 在濟南山田領事代理宛（電報）

青島守備軍民政部ガ濟南領事ニ民政部事務官

兼任ノ辞令発給等所要ノ措置ヲ執リタル節警

察官派出所ヲ撤退スル様回訓ノ件

第二一〇号

貴電第七四号民政部ニ於テ執ルヘキ所要ノ措置ニ関シ陸軍省ニ照会シ同省ヨリ民政長官ニ問合ハセタル處同長官ヨリ吉田領事ニ民政部事務官兼任ノ辞令発給アリ次第右所要ノ措置ヲ執ルヘキ予定ナル旨回答アリタル由ナリ就テハ右御含ミノ上民政部側ニ於テ右所要ノ措置ヲ了シタル節ハ警察官派出所撤退方実行セラレ度シ

在支公使ヘ転電アリタシ

一〇 四月十七日

在中国林公使ヨリ 本野外務大臣宛（電報）

山東省日本軍占領省地民政撤廢方中國側要求

二閔シ局面打開策稟申ノ件

第五四二号

山東民政問題ニ関シ先頃本使東京出発ノ際総理大臣ニ対シ

本件ハ何分支那側ニ於テモ引続キ反対シ居ル模様アルニ付法理上ノ根拠ニハ別ニ論及セス支那側ヲシテ民政施行区域ノ内主タル二三ノ地点ヲ開放セシメタル上民政ヲ撤廢スルコトトセハ宣シカル可キヤト申述ヘタルニ対シ総理大臣ヨリ右様ノコトトモナラハ考慮ス可シト答ヘラレタルコトアリ其後本使帰任ノ上実際ノ状況ヲ見ルニ支那側ノ反対ハ容易ニ終熄スルニ至ラス該地方代表者ノ如キ屢々外交部ニ対シ是カ解決ヲ迫リ居ル模様ニテ該問題ハ今以テ尠カラス支那上下ノ対日感情ヲ不良ナラシメツツアル次第ナリ

事情以上ノ如クナル処今更本件條約上ノ根拠ヲ云々シ若ハソノ立法上ノ手続如何ヲ詮議立テスルノ必要コレナキモ実際問題トシテ民政ノ実施ハ戦争中ニ限ラレ戦後ニ於テ之ヲ継続ス可キモノニ非ザル事ハ固ヨリ当然ナルガ故民政ノ存在ハ僅半年又ハ一年ヲ出デザル可ク且日本ニ於テ独逸ノ地位ヲ完全ニ繼承スルモノトシテ民政ハ独逸ノ行ハサリシ所ナルヲ以テ日本ハ之ヲ繼承セリト云フ事ヲ得ザル可ク旁民政ハ何レニセヨ早晚撤廢セラル可キ運命ヲ有スル次第ナリ

然ルニ恰モ過日外交總長ニ面会ノ節先方ヨリ本件ニ言及シルコト然ルベシ又主要各地ニハ警察官駐在所ヲ配置スルノ必要アルヘキカト存セラルル處右ハ在濟南領事館出張所ノ名義ヲ用ユルコト可然ト思考ス

一一 四月二十四日

在中国林公使ヨリ 後藤外務大臣宛（電報）

山東省日本軍民政施行区域内ノ開放候補地ヲ

中国側ヨリ申越ノ件

第五七六号

往電第五四二号ニ閔シ劉崇傑ヨリ電話ニテ支那政府ノ意向

ニテハ開放候補地ハ濰県坊子二ヶ所ナル旨念ノ為トシテ申越シタル處右二ヶ所ダケニテハ不充分ナル可キニ付候補地增加方尚交渉ノ必要有之可キモ不取敢電報ス

四月二十九日本使別用ヲ以テ陸外交總長ニ面会シタル際陸

ハ曩ニ山東民政問題解決ノ弁法トシテ劉參議ヲシテ申入レ

第六〇〇号 相ニ懇請ノ件

尚序ヲ以テ申進スル次第ナルガ愈々民政撤廢ノ場合ニ於テ

モ憲兵ハ之ガ分駐ヲ必要トストノ御意見ナルニ於テハ尠クトモ外務省警部ヲ兼任セシメタル上名義ハ外務省警部トス

一 山東省占領地施政一件 二 一二

一 山東省占領地施政一件 一三 一四 一五

一二

シメタル山東沿線二ヶ所開放ノ件ハ（往電第五七六号参照）既ニ國務會議ノ承認ヲ経タルモノナルガ政府攻撃ノ好題目タル本件ノ解決ニ就テハ支那政府ノ最モ渴望スル所ナ

ルヲ以テ此際新外相ノ就任ヲ機トシ是非支那側ノ希望ヲ斟酌シ速ニ解決ノ運ニ至ル様斡旋方新外相ニ懇請スヘキ旨章公使ニ電訓スル筈ナルモ尚本使ヨリモ同様電稟方依頼アリタリ

一三 五月四日 在青島秋山民政長官ヨリ

幣原外務次官宛

山東民政實施上必要ナル軍告示及軍訓令等發

布ノ件

（五月九日接受）

謹啓
守備軍ノ民政ニ関シ曩ニ陸軍省ト協定セラレタル覚書ハ其

ノ後軍務局長ヨリ通牒有之候ニ付先般著任ノ吉田濟南領事トモ詳細協議ヲ遂ケタル結果右覚書ノ趣旨ニ依リ実施スルコトニ相成候其ノ実施上必要ナル軍告示及軍訓令等ハ昨日発布シ五月十五日ヨリ施行スルコトニ相成居候其ノ詳細ハ陸軍省へ報告致置候ニ付御承知置被下度右不取敢得貴意候

敬具

大正七年五月四日 在青島

秋山民政長官

幣原外務次官閣下

一四 五月十六日 在中國林公使ヨリ

後藤外務大臣宛（電報）

山東民政問題解決方ニ関シ外交總長ヨリ我方

回答ヲ催促越ノ件

第六八四号

往電第六〇〇号ニ関シ外交總長ヨリ我方回答ヲ催促シ來レリ就テハ御詮議ノ結果至急何分ノ義御電訓ヲ請フ

一五 五月二十八日 後藤外務大臣宛

山東省日本軍民政二対スル中國ノ反感高潮ニ

達シ居ルニ鑑ミ速ニ問題ヲ解決スル様考慮方

第七四九号

五月二十八日倉知中日副總裁段總理ニ會見ノ際段ハ日支兩國ノ好情ヲ阻害スルモノハ實ニ種々ノ誤解ニシテ現ニ支那ニ於テハ目下防敵協約ニ關シ謂ナキ攻撃ヲ加フルモノ少カラサル處右ハ或ハ両國ノ近接ニ猜疑ヲ挾ム者ノ煽動ニ基ク

コトナシトモ限ラレス仍テ自分ニ於テハ専ラ協約ノ真相ヲ明ラカニシ攻撃ヲ排除スルノ方法ヲ講シツツアリ是亦畢竟誤解ヲ水糺センカ為メニ外ナラサル旨ヲ陳弁シ次テ別電第751号山東地方ニ於ケル事態ニ談及シタル後更ニ話頭ヲ民政問題ニ転シ同問題ニ對シテハ同地方人民ハ勿論全國民悉ク不滿ヲ懷ケル次第ニシテ自分並ニ政府ニ於テモ彼等ト其感ヲ同シクセルヲ以テ一日モ速ニ事態ヲ改善センコトヲ欲シ民政署撤退ト同時ニ商埠ヲ開設スルコトニ決意シ過般既ニ日本政府ニ提議スル所アリタルニ拘ラス爾来今日ニ至ル迄猶何等ノ回答ニ接セス而モ其間民政署ハ着々其事務ヲ進捗セシメツツアルカ如キハ誠ニ遺憾ニ堪ヘサル次第ニシテ日本当局ニ於テ充分ノ考慮ヲ加ヘラレントヲ切望セサルヲ得サル旨縷々陳述セル趣ナル処右ノ内民政問題ニ関シテハ從来累次具申ニ及ヒ置キタル次第モ之有リ支那朝野共ニ之ニ對シ依然トシテ不快ノ念ヲ懷抱シツツアルハ遺憾ナガラ争ヒ難キ事實ニ有之元來本件ニ付本使ニ於テハ固ヨリ篤ト御訓示ヲ体スルト同時ニ總理大臣御苦心ノ次第ヲモ拂察シ出来得ル限我方ノ立場ヲ弁護スルニ努力シツツアル次ナルモ何分高潮ニ達セル當國朝野ノ反感ハ容易ニ之ヲ冷

却セシメ難ク為ニ已ムヲ得ス本使ノ職責上茲ニ重ネテ閣下ノ御考量ヲ迎ヘント欲スル次第ナルカ実ハ本使過般濟南通過ノ際秋山民政長官ノ來済ヲ求メ同地ニ於テ本問題ニ關シ種々意見ノ交換ヲ試ミ本使ヨリ結局撤廃セラルヘキ運命ヲ有スル民政署ノ維持ヲ頑強ニ主張スルノ結果支那朝野ノ反感ヲ極端ニ激成スルカ如キハ之ヲ大局ニ顧ミ不得策ナルヘキ旨ヲ指摘シタル處長官ハ之ニ對シ大体同感ノ意ヲ表シタルモ唯万一民政署ヲ撤廃スルニ於テハ将来右ニ開スル経費ハ自ラ削減セラルルコトトナルヘキヲ以テ右等ノ關係上引続キ事務ノ進捗ヲ計リツツアル実情ナル旨内部ノ事情ヲ説明シタルガ果シテ右ノ如キ行懸リガ本問題ノ明確ナル決定ヲ遷延セシムル有力ナル一理由ナリトセバ之ヲ是正スルコト左迄困難ナリトハ認メ難ク即チ宜ク速ニ民政署ヲ撤廃シテ之ニ要スル経費ヲ他ノ事業ニ振向クル方遙ニ得策ナルヘキハ敢テ本使ノ贅述ヲ要セサル所ニ有之就テハ本使累次ノ具申ニ對シ何トカ速ニ好意的考慮ヲ加ヘラル様此際閣下ヨリ總理大臣ニ御懇談ヲ遂ケラレ以テ本使稟請ノ趣旨ヲ貫徹セシメラレンコトヲ懇願ス

一 山東省占領地施政一件 一六 一七

一六 五月二十八日

(在中國公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報))

山東省ニ於テ惡漢董天銘ヲ日本側ガ庇護シタ

ル事實アリヤ調査方在濟南領事へ指示ノ件

果大臣及當方へ電報アリタシ
大臣へ電報セリ

一七 五月三十日

(在濟南吉田領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報))

濟南駐在高田武官ノ使用人董天銘事件概要報

告ノ件

第一〇〇号

本官發在支公使宛電報第七四号

貴電第四三号董天銘事件ノ事實大要左ノ通
倉知中日副總裁五月二十八日段總理ニ會見ノ際段ハ山東省
ニ閔スル問題ニ言及シ同方面ニ於ケル事態ハ近來頗ル改善
セラレ先年ノ如キ不都合ナキニ至リタルトキ今尚多少遺憾
ノ点アルヲ免レス即所謂日本浪人カ土匪ト結托シテ屢々地
方ノ治安ヲ乱スコトアルカ如キハ甚面白カラサル次第ナリ
ト言フヘク又惡漢董天銘ナルモノ法網ヲ潛リテ逃走ヲ計ル
ヤ濟南ニ於ケル某日本武官ニ於テ之ヲ隱匿セル形跡アリ次
テ右事件ニ閔連シ日本人カ支那官吏ヲ攻撃抑留シタルカ如
キ事實アリ斯ノ如キハ両國ノ親交上誠ニ遺憾ニ堪ヘサル旨
ヲ語リタル趣ナルカ果シテ段總理所言ノ如キ事實特ニ董天
銘事件ニシテ事實ナルニ於テハ此儘打棄テ置キ難ク篤ト事
情ヲ查明シ置クノ必要アルニ付貴官ハ右詳細御調查ノ上結

捕シタルコトナシトテ一図ニ逮捕ノ事實ヲ否認シ要領ヲ得
サル為同官ハ本月二十日迄ニ督軍代理ヨリ相当ノ回答ニ接
セザルニ於テハ自由ノ措置ニ出ツベキ旨督軍府ニ通告シ同
夜当地憲兵又ハ青年團員ヲシテ山鉄停車場構内其他ニ於テ
支那密偵等數名ヲ引致セシメタリ抑督軍側ハ逮捕処刑ヲ絶
対ニ否認スルモ果シテ我駐在武官使用ノ支那人ヲ猥リニ逮

捕処刑セルコトアリトセバ支那側ノ処置甚タ宜シカラズ今
後ノ儀モ有之我官民使用支那人ノ安全ニ付督軍側ノ十分ノ

注意ヲ喚起スルハ正当ニシテ必要ノ事タリト雖董ハ嘗テ山

東革命ノ際民軍ニ加ハリ掠奪等ヲ働キ最近匪党ニ関係アル

ヤノ嫌疑モアリ果シテ支那側ニ於テ逮捕セリトセバ右ノ事

情ニ出ツルモノナルベクスカル人物ノ行衛搜查方ニ閔シ高

田大佐ガ一図ニ督軍側ニ強談ヲ試ミ次テ自由ノ措置ヲ執ル

旨声明シタル行懸上遂ニ事件ニ關係ナキ支那密偵等ヲ引致

スルニ至リタルハ頗ル穩当ヲ欠ク措置タリ本官ハ此旨ヲ以

テ同大佐ニ累次注意ヲ致スト共ニ本郷司令官ニ電報シ内意

ヲモ承知致シタル上ニテ双方ノ体面ヲ損セサルヲ趣旨トシ

支那側ト協議ノ末兎モ角モ一先ツ本件調停ヲ遂ケタリ然レ

トモ本件ノ為当地支那官民ノ感触ヲ傷ケタルコト尠カラザ

ルハ本官ノ誠ニ遺憾トスル處本件ニ顧ミ自今同様ノ事件ノ

再発ヲ嚴ニ防止スル為相當ノ御考慮ヲ切望ス

委細後報

外務大臣ヘ電報セリ

一八 五月三十一日

(後藤外務大臣ヨリ
在中國公使宛(電報))

一 山東省占領地施政一件

一八 一九

山東民政署撤廃問題詮議ニ閔スル件

第三八〇号

貴電第七四九号ニ閔シ

本件ハ段々御稟申ノ次第モアリ當方ニ於テモ折角詮議ヲ進

メ居レルモ尚多少手間取ルヘキ見込ナリ現ニ有松拓殖局長

官今回ノ渡支ハ山東民政問題ノ実情視察ノ任務ヲモ兼ネ居

レル次第ニ付少クトモ同長官帰京復命ノ上ニ非ザレハ詮議

決定ヲ見ルコト困難ナリ從テ其辺御含ノ上本問題ニ對スル

支那側ノ立場ヲモ十分同長官ニ徹底セシメ置カルル様致度

シ参考トシテ在濟南領事ヘ転電シ置カレタシ

一九 六月一日 (後藤外務大臣ヨリ
在濟南吉田領事宛(電報))

董天銘事件ニ閔シ陸軍側ハ高田大佐ニ対シ相

當処置ヲ執ル意向ナル旨内密通報ノ件

第三四〇号(極秘)

高田大佐ノ行動ニ付テハ陸軍側ニ於テモ其不当ナルヲ認メ
之ニ対シ相當処置ヲ執ルノ内意アル趣ナルニ付貴官ニ於テ

一 山東省占領地施政一件 二〇 二一

ハ最早此上同大佐ヲ追窮スルノ態度ニ出デラレザル様致度
シ右貴官極内密ノ御含迄ニ申進ズ
北京へ転電アリタシ

ト意思疏通ヲ了セル旨報告ノ件

二〇 六月三日

在濟南吉田領事ヨリ
後藤外務大臣宛

張店及濰縣警察署派出所撤退完了報告ノ件

政機密第三〇号

大正七年六月三日

在濟南

領事 吉田 茂（印）

外務大臣男爵 後藤新平殿

張店及濰縣當館警察署派出所撤退方ニ閑シテハ客月十日付
政機第二二号拙信ヲ以テ支那側ノ注目ヲ喚起セサル様暫時
派出所ノ形式ヲ存置シ機ヲ見テ全部撤廃可致旨申進置候處
本月三日ヲ以テ愈々兩所共閉鎖致シ駐在警察官ハ夫々引揚
ヲ了シ候条右ニ御承知相成度此段報告申進候也

本信写送付先 在支公使

註 政機第二二号省略

二一 六月四日

青島守備軍參謀長ヨリ
田中參謀次長宛（電報）

高田大佐使用支那人ノ被害事件ニ閑シテハ概況前電ノ如シ

ト雖當時偶々当地ニ來リタル土肥原大尉（張樹元ト同期生）ヲシテ軍ノ山東治安ニ閑シ特別ノ注意ヲ払ヒ屢々匪徒

ヲ逮捕シ危險人物ヲ放逐シタル事実ヲ承知シナガラ間諜ノ言ヲ誤信シ往々奇怪ナル報告ヲ北京政府ニ為スカ如キ近クハ高田大佐ノ使用人ニ閑スル事件ノ如キ相互ノ親善ヲ害スル処置ハ甚其意ヲ得ス虛心坦懷協力事ニ当ルノ誠意ヲ張督軍代理ニ説得セシムルト同時ニ北京帰還ノ上林公使及支那政府ノ當局者ニモ實際ノ情況ヲ説明セシメ既ニ意思疏通ノ通報ヲ得タリ又吉田領事ノ報告ハ一二ノ点ニ於テ高田ト意見ヲ異ニシアリシカ如シト雖決シテ内心反目スル等ノコトナク幸ヒ吉田ハ目下青島ニ來リ居レハ将来此ノ如キ失態ナキ様注意スヘキニ就キ御安心ヲ乞フ

（二記註外欄）
（欄外註記）

一 六月六日本庄中佐來訪參謀本部ニ於テモ高田大佐ノ行動ヲ是認セサルカ故ニ将来ノ注意方戒告セルニ付幸ヒ本件ハ支那側トモ事件結了ニ付高田ノ处分モ右戒告ニテ終了シタント申出タリ（政務局長花押）

二 カクテハ高田大佐ノ行為ヲ是認シ居ルカ如ク認メラル

二二 六月五日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

山東民政撤廃及青島還附問題ニ關スル劉崇傑

ノ倉知ニ対スル談話ニ関連シ意見具申ノ件

第七八五号

往電第七四九号ニ閑シ

其後劉崇傑ハ段總理ノ内意ヲ含ミテ更ニ倉知ニ対シ仄聞スル所ニ依レバ山東民政問題ニ閑シニ三有力ナル日本人士ニシテ該問題ノ世間ニ喧伝セラルハ畢竟少数地方政府客ノ煽動ニ依ルモノニシテ深キ根底アラズト観測シツツアル向アリトノコトナルモ右ハ全然淺薄ノ觀測タルヲ免レズ即チ同問題ガ独リ一般國民ノ激烈ナル反対アルノミナラズ政府當局ニ於テ到底承認シ難キ所タルハ既ニ累次當局ノ声明セル所ナルト同時ニ更ニ一部ノ日本人士中民政が平和克復後自ラ撤廃セラル可キモノナル以上此際早急之ガ撤廃ヲ日本ニ

逼ルノ必要モナカル可シトノ説ヲナスモノアル由ナルモ是亦率強附会ト云フノ外ナク元來平和ノ克復ト共ニ民政ノ撤廃セラル可キハ固ヨリ當然ノ事理ニシテ支那政府ハ平和克復ノ時期迄晏如トシテ平靜ヲ裝フカ如キコトハ為シ難キニ付一日モ速ニ之カ撤廃ヲ求メ以テ兩國ノ敦睦ヲ確保シ度キ真意ニ外ナラス次ニ青島問題ニ付テモ同地ノ還付ハ既ニ大正四年新條約ノ締結ト同時ニ明確ニ声明セラレタル所ニシテ其間何等疑義ヲ容ルルノ余地無キニ拘ハラス近來同地方ニ於ケル日本當局ノ施設ニシテ往々永久的設備ヲ主眼トスルモノ尠カラサルヤノ趣ノ処若シ果シテ然リトセハ民政問題ト相俟チテ支那朝野ニ多大ノ誤解ヲ与フ可キコト明白ニ付返ス返スモ日本當局ノ反省ヲ促ササルヲ得サル旨縷陳セル趣ナルカ本使惟フニ民政問題ガ日本ニ対スル支那朝野ノ反感ヲ激成セシメツツアル事全ク劉所言ノ通リナルハ本使具申ノ通リニ付改メテ茲ニ贅述ノ煩ヲ避ケベキモ之ヲ青島還附ノ問題ニ付テ見ルモ我方ノ宣明ハ炳乎トシテ疑ヲ容ルノ余地無ク仮令是レガ当事國ハ單ニ日支兩國ニ過ギズトスルモ畢竟列國環視ノ下ニ行ハレタル次第ニ付万ー永久的施設ノ歩ヲ進メ平和克復ノ際右宣明ニ背反スルガ如キ行動

有之場合ニ於テハ獨リ支那ニ対シテ背信ノ責ヲ免レザルノミナラズ信ヲ列国ニ失スルニ至ルベク且之ヲ實際ノ効果ニ顧ミルモ殆ド弾丸黒子ノ一小地点ヲ獲得シテ全支那ヲ失フ結果トナルベシ就テハ和平克復ノ際ハ勿論今日ニ於テモ諸般ノ施設ニ付テハ右宣明ノ趣旨ニ順応シテ措置セラレ支那ハ勿論広ク世界ニ対シ我權威ト信用トヲ保持スル様致度シ

二三 九月十四日 在濟南吉田領事ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

山東民政問題ニ關シ山東官民ノ不満緩和策ニ

付意見具申ノ件

第一四〇号

民政問題ニ關シ重立タル山東官民ハ遂ニ満足ナル解決ヲ得ザルヲ今尚遺憾トス日独開戦後日支交渉山東革命釐錢問題等彼我接触ノ間ニ起レル大小ノ事件ニ対スル不満ノ遇々民政問題ニ依リテ勃発シタルモノナルガ故ニ本件ハ單純ナル問題ト見ル可カラザルノミナラズ彼我相倚ルノ關係ハ官兵既ニ能ク之ヲ了知スルニ至レルモ其間未ダ釈然タル能ハザルモノアルハ不満ニ相当ノ根底アリト見ルヲ妥当トス可シ

二四 九月十七日 在濟南吉田領事ヨリ

山東民政問題善後策トシテ山東鐵道附屬地内

二中国巡警ヲ入ルルノ案ニ付意見具申ノ件

（十月一日接受）

大正七年九月十七日

在濟南

領事 吉田 茂（印）
外務大臣男爵 後藤新平殿

本件ニ關スル当地官民ノ觀想ノ一端ハ曩ニ五月十五日付政機第二三号（註）拙信ヲ以テ不取敢及報告置候處所謂民政問題ハ制度自体ニ對スル是非ニ非スシテ青島攻囲戦開始以後ニ於ケル諸般ノ彼我ノ接触山東ノ革命厘錢問題等ニ依リ惹起セル官民ノ不平不満カ会々民政問題ニ藉リテ勃発セルモノニテ其原因ハ深クシテ遠シト可謂輕々ニ看過スヘカラスト存候本件ノ民政自体ノ是非ニ關スルニ非サルハ民政施行ノ事實ヲ知ルモ別ニ之ニ対シテ妨害ヲ加フルコトナキヲ以テ知ルヘク然ラハ之ニ反対スルノ非ヲ悟リテ默過スルヤ山東省官民ノ我ニ対シ尚廉焉タルモノアリ商取引ヨリ各種企業ニ至リ兎角支障ノ生シ易キ所以ハ彼等ノ胸臆ニ未ダ容易ニ我ニ許ス能ハサルモノアルニ依ルヘク曩ニ本官赴任ノ当初民間有志二三ニ会スルヤ彼等先づ民政問題ニ言及シ之カ解決ノ途ナキカヲ問ヘルニ付今日ニ於テ又如何トモスヘカラスト信スルモ民政ニ対シ平ナラサル所以如何ヲ反問セルニ独立時代ニ於テハ沿線鐵道附屬地ノ行政ハ一一ニ支那官吏ノ指

行ハ然ラス独逸ノ平時組織ヲ以テ戰時組織タルノアリ今日ハ然ラス独逸ノ平時組織ヲ以テ戰時組織タル本官ハ此際山東官民ノ表情ニ幾分ノ満足ヲ与フルコソ機宜最善ノ措置ト確信シ爾來官民応接ノ間窃ニ種々討究致シ居ル處官民ノ特ニ奇トスルモノノ内独乙時代ト異リ鐵路巡警ガ一步モ山東鐵路内ニ入ルコトヲ許サレザルモ其一ナリ我ヨリスレバ鐵路巡警ヲ鐵道附屬地内ニ入ルルモ別段ノコトナカル可キノミナラズ名ハ警察ノ一方面ヲ分担セシムルコトニ當リテ其實ハ我ガ憲兵ノ補助機關タルニ過ギザルニ至セバ官民彼我ノ關係ヲ改善スルノ見地ヨリ適當ノ機會ニ於テ先づ鐵路巡警ヲ鐵道附屬地内ニ入レシムルコトニ御決定相成ラバ如何カ林公使上京ニモアレバ特ニ御詮議相成様致度シ委細郵便

ハ存外ノ良結果アルヘキヲ疑ハス巡警カ指導宜シキヲ得ハ
能ク我用ヲナスヘキハ独逸時代ノ例ニ微シテモ明白ニ有之
要之民政問題ノ善後処分ノ必要ト沿線ノ實際ニ微シ鉄路巡
警ヲ鐵道附屬地内ニ入ルノ義ハ相當御考画相成候要可有
之御詮議ノ上差支ナシトノコトナレハ本官ヨリ早速ニモ督
軍ニ対シ其交渉開始致シ民政問題ノ跡始末トシテ山東省官
民ノ感情融和ノ途ヲ相講度此条何分ノ義御訓令ニ接シ度此
段及要請候

本信写送付先 在支公使

註 五月十五日付政機第二三号省略

二五 十月三十日 内田外務大臣ヨリ
在中國芳沢臨時代理公使宛

山東地方ニ於ケル邦人ノ施設ニ關シ中国政府

ノ公文中ニ言及セル獨逸ノ権利ニ關スル根本

問題ニ付テハ暫ク其儘ニ差置力レタキ件

政機密送第一六四号

本件ニ關シ七月二十二日付機密第二九五号貴信ヲ以テ御申
越ノ次第有之候處從來支那側ハ対獨宣戰ニ基キ獨逸トノ諸
條約ヲ廢棄セルヲ以テ日本ハ漫リニ山東省ニ於テ之等條約

ニ基ク獨逸ノ事業ニ干与スルコトヲ得スト云フカ如キ主張
ヲ反覆シ居リタルカ右ハ御承知ノ通り素ヨリ誤謬ノ見解ニ
シテ曩ニ支那側ノ反省ヲ求メタル次第ニ有之候然ルニ今回
主張ハ山東省ニ於ケル獨逸ノ権利ハ日本カ獨逸ト讓与ヲ協
定セサル以前ニ於テハ當然隨意ニ之ヲ繼續接弁シ得サル次
第ナルモ支那政府ハ敢テ日本ノ條約上ノ権利ヲ認メサルモ
ノニアラスト云フニアリテ從來ノ論旨ヲ变更シタルヤニ思
考セラレ候処元來山東省ニ於ケル獨逸ノ権利利益讓与等ハ
同省ニ關スル日支條約ノ規定ニヨリ他日日本カ獨逸ト協定
ヲ遂ケタル上ニテ完全ニ我手ニ帰属スルニ至ルヘキモノニ
有之候得トモ同條約ニヨリ支那政府ハ日本カ他日獨逸トノ
間ニ協定スヘキ此等権利等ノ讓受ニ対シ予メ同意ヲ与ヘタ
ル次ニテ斯ル條約上ノ目的物ヲ支那政府單獨ノ意思ヲ以
テ自由ニ处分シ得サルコトハ多言ヲ要セス且又山東省ニ於
ケル獨逸已得ノ権利事業等ハ目下軍事的押収に伴フ一般的
効果トシテ日本ニ於テ當然其ノ管理ノ権ヲ有スル次第ニ有
之候サレハ前記山東省ニ關スル日支條約ノ效果ト右軍事的
押収ノ關係トハ結局日本ヲシテ事實上山東省ニ於ケル獨逸

ノ地位ニ代ラシメタルモノト云フヲ得ヘク同省ニ於ケル獨
逸已得ノ権利事業等ハ今日ニ於テモ日本ニ於テ之ヲ管理ス

ルコト素ヨリ當然ノ義ニ有之右ニ對シテ支那側ヨリ彼是論
議ヲ挾ムヘキ謂レ無之ト思考致候就テハ今回支那政府公文
中山東省ニ於ケル獨逸ノ権利承継問題ニ關スル支那側ノ意
嚮ハ日本カ獨逸トノ間ニ其ノ讓与ヲ協定シタル上ハ獨逸ノ
権利等ヲ當然繼續接弁スルコトヲ得ヘク夫迄ニ支那單獨ノ
意思ヲ以テ該権利ノ目的物ヲ自由ニ处分スルヲ得ストノ趣

旨ト解釈スル旨並前頭ノ通り日本ハ今日ニ於テ已ニ事實上
山東地方ニ於ケル獨逸ノ地位ニ代リ居レル次第ニテ日本カ
獨逸已得ノ権利事業等ヲ管理スルハ當然ノ筋合ナル旨支那

側ニ了解セシムルノ措置ヲ講スルコトモ一応考慮シタルカ
結局前頭ノ通リ支那側態度モ多少變更シタルヤニ看取セラ
ルルノミナラス本件ノ如キハ當方ヨリ余リ進テ論議ヲ試ミ
サル方得策ト思考セラルニ付右支那政府公文中山東省ニ
於ケル獨逸権利ニ關スル根本問題ノ点ニ付テハ暫ク其ノ儘
ニ差置キ当分支那政府ノ態度ヲ注視スルニ止メ置クコトト
致度候間右様御承知置相成度尚又右支那政府公文中坊子地
方鉱山採掘ノ件ニ付テハ別信ヲ以テ可申進候ニ付之亦右様

方鉱山採掘ノ件ニ付テハ別信ヲ以テ可申進候ニ付之亦右様

外務大臣子爵 内田康哉殿

特命全權公使男爵 林權助（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

大正七年十一月十三日

（十一月十八日接受）

山東地方ニ於ケル邦人ノ施設ニ關スル中國側

抗議ノ公文ニ對シ回答ノ件

附屬書 十一月十一日附在中国日本公使館ヨリ

機密第四四四号

在支那

在支那

（十一月十八日接受）

本件ニ關シ客月三十日附政機密送第一六一號御回訓ノ次第

閱悉仍テ御訓示ノ趣旨ニ基キ山東省ニ於ケル獨逸ノ権利ニ

一 山東省占領地施政一件 二六

二二

関スル根本問題ニ触ルコトヲ避ケ且ツ閣下ヨリ陸軍大臣宛御照会ノ趣旨並ニ本年九月十日附在濟南吉田領事發當館宛公第五号附屬書ノ趣旨ニ拠リ別紙写ノ通り外交部へ申入置候間右様御承知ノ上委細ハ別紙ニ就キ御了悉相成度此段及報告候也

本信写送付先

在濟南吉田領事

大島青島守備軍司令官

(附屬書)

十一月十一日附在中国日本公使館ヨリ陸中國外交總長宛覧書

覺書

坊子地方ニ於ケル鉱山開掘問題ニ關シ本年七月九日附外交部覚書ヲ以テ來照ノ次第閱悉セリ
帝国公使館ハ本件ニ關シ山東地方ヲ管轄スル帝国官憲ニ對シ事實ノ真否精査方訓示シ置キタル處今般其の報ヲ総合查覆スルニ帝国官憲ノ調査セル事實ニ拠レハ帝国臣民カ現ニ坊子地方ニ於テ採掘シツツアル鉱区ハ何レモ元来獨逸經營ノ区域内ニ編入セラレアリタルモノニシテ從テ當然日本ニ於テ經營シ得ヘキ次第ナルノミナラス殊ニ關係帝国臣民ハ

何レモ支那鉱務局ノ承認ヲモ経タル上ニテ採掘ニ從事シ居レル次第ニシテ旁々山東駐在支那地方官憲ノ具報及右ニ基ク支那當局ノ抗議ハ帝国公使館ノ意外トスル處ニシテ頗ル了解ニ苦マサルヲ得サル次第ナリ

將又上記外交部覺書ニハ特ニ丁家井炭鉱ニ於ケル施設其他一二ノ實例ヲ挙シ右炭鉱ノ採掘ニ從事スル帝国臣民ノ行動ヲ非難シ毫モ住民ノ生命財產ヲ顧ミサル旨ヲ指摘シアルモ帝国官憲ノ查報ニ拠レハ已ニ上述ノ通り該地方ニ於テ帝國臣民ノ採掘ニ從事スル各鉱区ハ何レモ独逸ノ經營權ニ属シタルモノナルノミナラス同鉱区採掘ニ附隨シテ実行セムトル諸般ノ施設ハ或ハ財產ノ保護又ハ衛生上ノ取締ニ便セムカ為メニシテ且ツ之カ实行ニ方ツテモ嚴ニ地方風習慣例ヲ尊重シツツアリ現ニ丁家井炭鉱採掘ニ就テハ当初ヨリ經營者ト地方官憲トノ間ニ何等意思ノ扞格ナキニミナラス貢献シ為ニ住民ハ頗ル感謝ノ意ヲ表シツツアルノ実情ニ在リ次テ寿光局問題ニ關シテモ之カ開坑ニ當リ適法ノ手続ヲ了シタルハ勿論其採炭箇所ハ頗ル村落ニ遠隔シ何等危險ノ虞無ク而シテ同礮用煉瓦製造場ハ全然鐵道部用地ニ属シ

毫モ民有地ト關係ヲ有セス且ツ最近其附近ニ栽植セル琴樹

陸外交總長宛

二七 十一月二二十八日

在中国林公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

山東民政署問題ニ關シ議員ノ質問ニ對スル政

府答弁ヲ英漢字紙報道ノ件

第一六五一号

山東民政署問題ニ關スル議員ノ質問ニ對スル政府ノ答弁ト本問題ニ關シ外交部及在東京支那公使ハ累次抗議ヲ提出シタルモ日本政府ハ何等ノ措置ヲ採ルコトヲ(脱)政府当局ハ本件施設力啻ニ主權ヲ侵犯スルノミナラス地方人民ノ痛苦亦甚シキヲ慮リ本年二月山東督軍ト協議ノ上灘県ヲ開放シ以テ日本民政ノ撤廃ヲ求メンコトヲ期シ外交部ヨリ日本公使館ニ提議スルト同時ニ一方在日本支那公使ニ電訓シテ直接日本政府ト折衝セシメタリ而モ爾來何等確答ニ接セサルコト久シキニ及ヒタルカ本年九月濟南順德及高密徐州ノ兩鐵道建設ノ為メ日本資本家トノ間ニ借款ノ議起レルヲ機トシ在東京章公使ニ電訓シテ前記借款ノ交換条件トシテ民

政署ノ撤廃ト山東鐵道沿線ニ於ケル日本軍隊ノ撤退トヲ要措置ヲ講セラレムコトヲ希望ス

大正七年十一月十一日

日本帝国公使館

一 山東省占領地施政一件 二七

二四

求セシメタリシカ愈々九月二十四日借款契約締結セラレ右
ノ結果上記契約ノ実施ト共ニ山東ニ於ケル民政署全部撤廃
セラルルコトトナリ居レリ

事項二 山東省ニ於ケル通信業務細則交渉一件

二八

五月十日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛

宛書翰写

山東日中通信聯絡細則取極ニ関シ在青島秋山

民政長官トノ往復文写送附ノ件

附屬書一 三月二十日附秋山民政長官ヨリ林公使

宛書翰写

山東通信聯絡細則取極ノ交渉進捗ニ尽

力方依頼ノ件

二 古賀民政部通信部長ヨリ秋山民政長官

宛書翰写

日中通信聯絡細項取極交渉ノ経過報告

三 四月一日附在中国林公使ヨリ秋山民政
長官宛書翰写

山東日中通信聯絡細則取極交渉ニ關シ

船津書記官ヨリ葉交通次長ニ注意ノ件

長官宛書翰写

日本提出ノ対案ニ対スル中國側ノ意見
書写送付ノ件

(五月十七日接受)

機密第一九九号

二 山東省ニ於ケル通信業務細則交渉一件 二八

大正七年五月十日

在支那

特命全權公使男爵 林權助 (印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

山東通信聯絡細則取極ニ関シテハ客年末ヨリ青島ニ於テ日
支両國委員間ニ商議中ノ処捗々敷進行セサル為秋山民政長
官ヨリ別紙写第一ノ通り申越ノ次第有之候ニ付支那側ヘ一
応交渉ノ結果不取敢別紙写第三及第四ノ通り回答及置候間
右様御承知相成度此段別紙相添申進候也

本信写送付先 在济南吉田領事

(附屬書一)

別紙写第一

三月二十日附秋山民政長官ヨリ林公使宛書翰写

山東通信聯絡細則取極ノ交渉進捗ニ尽力方依頼ノ件

拝啓御滯京中ハ色々御懇情ヲ蒙リ厚ク御礼申上候其後益々
御清穆十六日無事御帰任相成候趣奉慶賀候陳者御承知ノ如
ク昨年十一月ヨリ当地ニ於テ日支両國委員間ニ日支通信聯

二五